

## マイク1本米で挑む笑いの道

欧米で盛んなスタンダップ・コメディーは、1人でステージに立ち、観客を笑わせる。日本の漫談に近いが、風刺を利かせた「毒」も含むネタが多い。米国でこれに挑む柳川朔さん(26)は「マイク1本で観客と対峙し、自分の視点を笑いに変える究極の話芸」と話す。

大阪大生だった2014年、米国で活躍する日本人コメディアンを知って心引かれ、渡米。シカゴの劇場などで腕を磨き、年間100本以上の舞台に出るようになった。前から表現に関わる仕事を望んでいたが、自ら台本を書き、演出し、俳優でもあるスタイルは「天職かな」とほ

ほ笑む。

例えば戦争をテーマに米国を皮肉るとしたら、先の戦争で米国に負けた国の「日本人だからこそ表現できる笑いがある」と考える。そんな「自分にはしか見えないものを自分の言葉で表す」のが醍醐味だが、面白くなければコメディーとして成立しないので笑いの質は何より大事。「シンブルだが難しい、奥深い世界」と言う。

米国や日本にとどまらず、活動開始から5年弱で世界12カ国の舞台に立ってきたが、国によって観客の反応はさまざまだ。その国をモチーフとした映画や本で予習するほか、現地のバーを訪れて、今問

### スタンダップ・コメディアン of 柳川さん



2018年11月に開かれた国際大会で入賞し、各国代表のコメディアンと写真に納まる柳川さん(右から2番目)=米国・シアトル(本人提供)

題に感じていることや日本の印象を聞くとといった「事前準備」がネタ作りに欠かせない。

米国の長寿コメディー番組